令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小23) 長崎市立(土井首小)学校

1 教育目標

「よく学び　いつも元気で　やる気いっぱい」の子どもを育てる

2 学校経営方針

子どもが主体的に動く、しなやかでたくましい学校
～予測困難な未来を生き抜く子どもの育成～

3 重点目標

1　豊かな心を育む
(1) 基本的生活習慣の確立
(2) 特別支援教育の充実
(3) 人権教育の推進
(4) 平和教育の推進
(5) 道徳教育の充実
(6) 読書教育の推進

2　確かな学力を育む
(1) 校内研修の充実
(2) 分かる授業の創造
(3) 基礎的基本的事項の定着
(4) 家庭学習の習慣化

3　たくましさを育む
(1) 健康教育の推進
(2) 食育の推進
(3) 安全教育の充実
(4) 働きやすい職場環境づくり

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果(肯定的割合・%) 児童 R5	児童 R6	保護者 R5	保護者 R6	教職員 R5	教職員 R6	分析及び改善策
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	89	94	91	95	100	91	○ 学校教育目標「よいや」が根付いてきている。学校目標達成と楽しい雰囲気であるという項目で肯定的割合が高くなった。業務改善と工夫により超過勤務（45時間以上）も減った。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	92	97	86	93	100	91	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している					100	100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している					75	87	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	93	89	89	90	54	44	○ 本年度は、ルールやマナー・挨拶等の生活・生徒指導項目において、昨年度より低い結果となった。全職員で指導を徹底・継続することを共通理解している。。 ○「いじめ防止対策」では、いじめの萌芽についても見逃すことなく、未然防止や早期解決に努める必要がある。 ○心の教育においては教職員の評価が前年度より全項目で低い結果となった。何がダメで何から取り組んでいくか、今一度系統的に考えていく必要がある。
		挨拶をよくしている	94	92	72	68	67	44	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	83	89	68	66	83	70	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93	90	86	86	100	91	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	95	88	76	79	100	96	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	90	98	91	89	71	65	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	89	93	96	95	79	74	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	88	93	77	86	100	96	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	90	93	95	94	96	100	○ 校内では、子どもたちが「自立した学習者」として主体的に学びに向かう研究を進めている。その成果として、全体的に肯定的割合が高い。研究主任を中心に、学力向上を目指した研究が推進されていて、わかりやすい授業も高評価であった。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	92	95	88	93	100	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	83	91	91	75	83	65	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	91	89	71	87	96	96	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	90	95					

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	93	91	86	89	92	100	○ 基本的な生活習慣である早寝・早起き・朝ごはんについては、児童と保護者、教職員の捉え方に乖離がある。学級懇談会や学校保健委員会等において保護者に理解と協力を求めていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）が身に付いている	75	82	72	80	67	65	
		体力向上に努めている	88	94	84	86	92	96	
	食育	食に関する教育活動を行っている	87	95	94	94	87	91	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	83	93	95	91	100	100	○ どの項も、概ね高い評価となった。ＰＴＡや地域の方々が日々来校され、教育活動へ参加される姿を児童も見ている。本校のよい文化であり、継続していきたい。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	76	87	90	98	87	96	
	ＰＴＡ・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	82	95	91	93	100	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している					96	100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	82	95	85	86	83	74	○ 教職員にとって、働きやすい職場づくりが進んでいる。家庭学習強化月間の取組により業務時間の確保になった。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる					92	100	

５ 自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

○全職員が「認める・褒める」指導を継続してきていることで、児童が自身の生活の様子に対して肯定的な捉え方を行い、学校全体が落ち着いた中で教育活動が行われている。特に、学習面で「学び合い」を取り入れ、分からないことでも、友達に尋ねたり、調べたりすることができた。３学期からは自立した学習者を目指し、「自主学習オリンピック」を開催できたことも、児童の主体性を伸ばし、支持的風土の安定を図っていく上で、効果的な取組であった。
○学習面の課題は、友達に尋ねる時の声のかけ方や聞き方、会話する力・コミュニケーション力である。「学び合い」や表現する機会を増やし、引き続き指導していく。
○教職員の働き方改革の一助として「テトル連絡ツール」を利用している。しかし、欠席連絡が簡単で容易になり、欠席者が増加していることの要因になり、基本的生活習慣の評価項目の低さとも繋がっていると捉えている。今後も、さらにどのようにして全児童の基本的生活習慣の向上を図っていけばよいのかについて、家庭や育友会、地域と連携して取り組んでいきたい。
○午前中５時間授業と毎学期実施した家庭学習強化月間により、子供と向き合う時間や放課後の授業準備など「働く時間」の確保ができた。

６ 学校関係者評価

○昨年度から伸びた項目も多く概ね妥当である。特に、「学校は明るく楽しい雰囲気である」や「学校目標の達成」について学校職員が一丸となり努力していることは素晴らしい。
○「ルールやマナーを身に付けること」や「挨拶をよくすること」については、家庭の問題でもあり、愛情不足を感じることもある。。挨拶は少ないのは確かだが、声に出さなくとも会釈をするなど相手を思いやる心を全体で育ててほしい。
○学校教育には限界があり、すべての教育を学校に委ねる時代ではない。育友会や地域がしっかり連携する必要がある。
○短縮授業（家庭学習強化月間）は、初めは「何もせんでいい」と捉えている子どもや保護者もいて心配だった。しかし、実際の短縮授業での自主学習オリンピックの取組はたいへんよい。子どもの自主性の育成と将来への「自立」につなげるための教育としてもぜひ継続してほしい。期間中は、外で遊んでいる子どもをあまり見かけなかった。自主学習に取り組んでいたようである。

７ 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

○「挨拶」については３者とも昨年度より低評価であった。「あはは」運動の周知、徹底を図り、さらに学校・家庭・地域で連携して、挨拶やマナー育成に全力で取り組んでいく。
○「将来大人になって、『自主性』がないと仕事にならない。」という助言を受け、日常の授業や生活場面で一人一人が主体的に自分の良さや可能性を最大限に発揮できるような場の設定を行う。集団の中で友達と協働しながら、生き生きと活躍できるコミュニケーション力を育成する。
○「わかりやすい授業」「体力向上」「学校の状況は通信やHP等で知る」については、昨年度より高評価であったため、継続・徹底する。自治体ワークブックやキュビナなどICT機器の活用により個別最適な学びを保障し、さらに授業改善を行い学力向上につなげていく。

※「４ 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「４ 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合（整数値のみ）を集計する。